



第3週の発生動向(2005/1/17~2005/1/23)

- 1. 感染性胃腸炎については、五所川原保健所管内を除くすべての保健所管内で多い報告数が続いています。特にノロウイルス感染症は全国的にも、多発しています。家庭内、保育所、学校、高齢者施設など人が接触する機会が多い場所では特に予防対策を徹底することが必要です。
2. インフルエンザについては、弘前保健所管内を除くすべての地域より、患者報告がありました。

第3週五類感染症定点把握

Table with columns: 保健所名, 青森, 弘前, 八戸, 五所川原, 上十三, むつ, 青森県計, 増減数. Rows list various diseases like インフルエンザ, 咽頭結膜熱, etc.

Table with columns: 定点数, 小児科, 内科, 眼科, 高齢. Rows list the same diseases as the previous table, showing counts by clinic type.

は警報です。 は注意報 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (17年計には、今回届出された人数を含む)

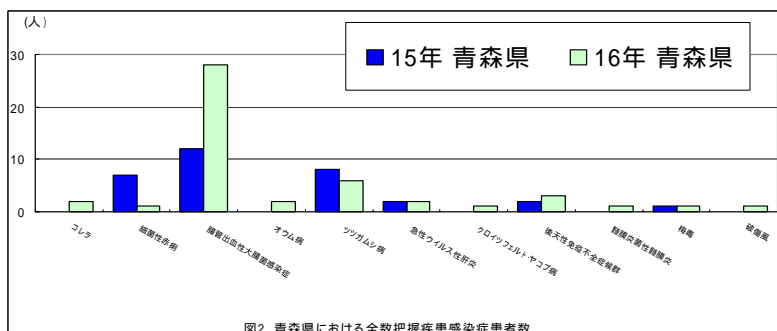
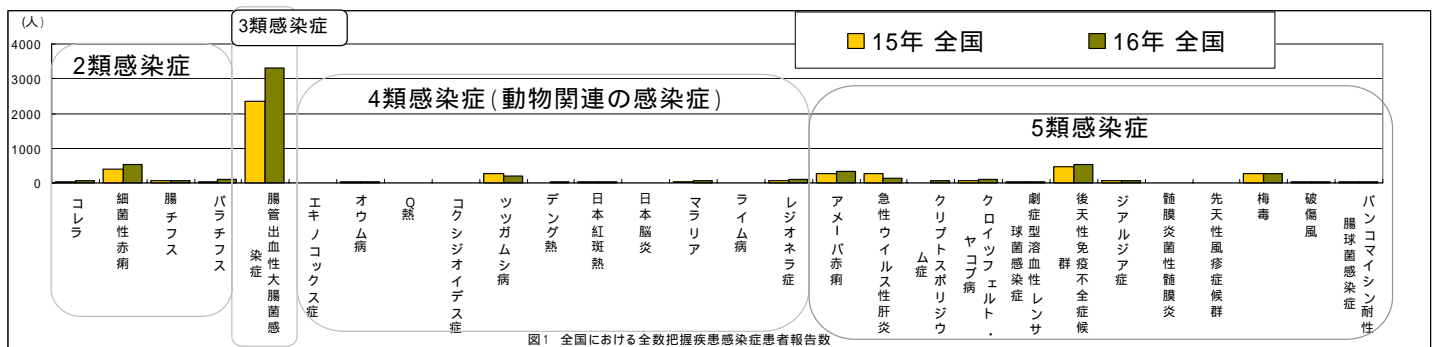
- (59) R Sウイルス感染症(五類定点把握疾患) 弘前保健所管内: 1人 (17年計 5人)
(82) マイコプラズマ肺炎(五類定点把握疾患) 八戸保健所管内: 2人 (17年計 7人)

病原体検出情報

1月11日~17日の間に、八戸保健所管内の高齢者施設、上十三保健所管内の家族、高齢者施設等において下痢、嘔吐、発熱を主体とする感染症事例があり、これらの便より合わせて29例、吐物からは1例のノロウイルスが検出されました。

感染症の窓

全数把握対象疾患(平成15年-16年)



全国において、平成15年より増加した主な疾患はコレラ、細菌性赤痢、パラチフス、腸管出血性大腸菌感染症、レジオネラ症、アメーバ赤痢、クリプトスポリジウム症、クローイツフェルトヤコブ病、後天性免疫不全症候群、梅毒です。反対に減少した主な疾患は、ツツガムシ病です(図1)。
青森県において、平成15年より増加した疾患は腸管出血性大腸菌感染症(12人 28人)です。一方、減少した疾患は細菌性赤痢(7人 1人)、ツツガムシ病(8人 6人)でした(図2)。